

馬術部



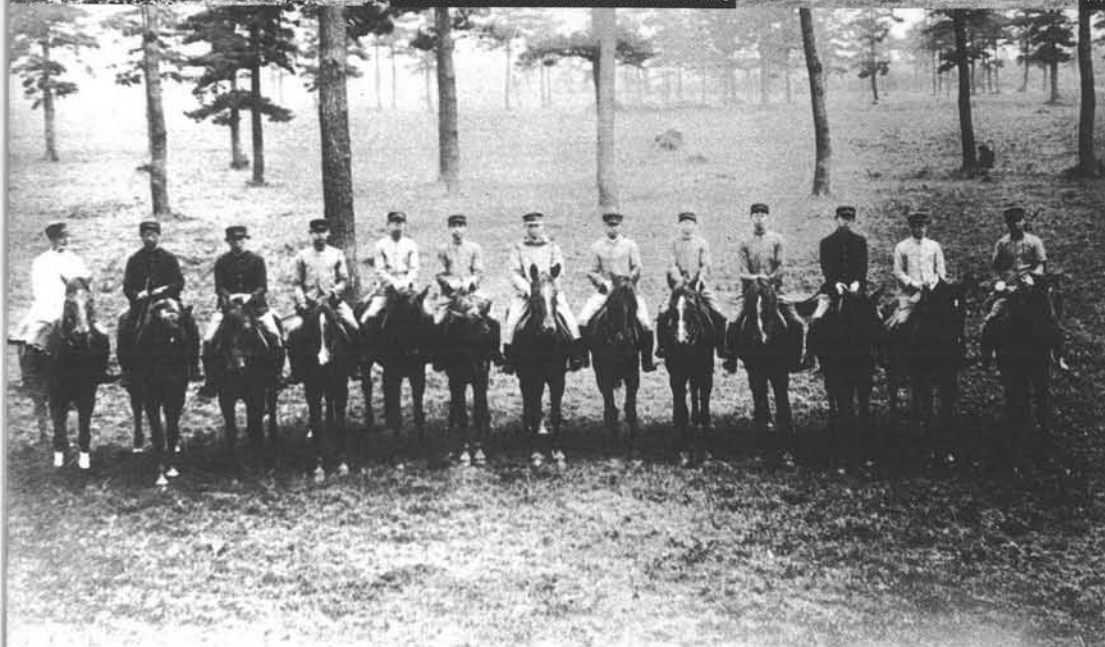
1990(平成2年)～91(平成3年) 全日本学生馬術選手権2年連続優勝の白藤淳主将。



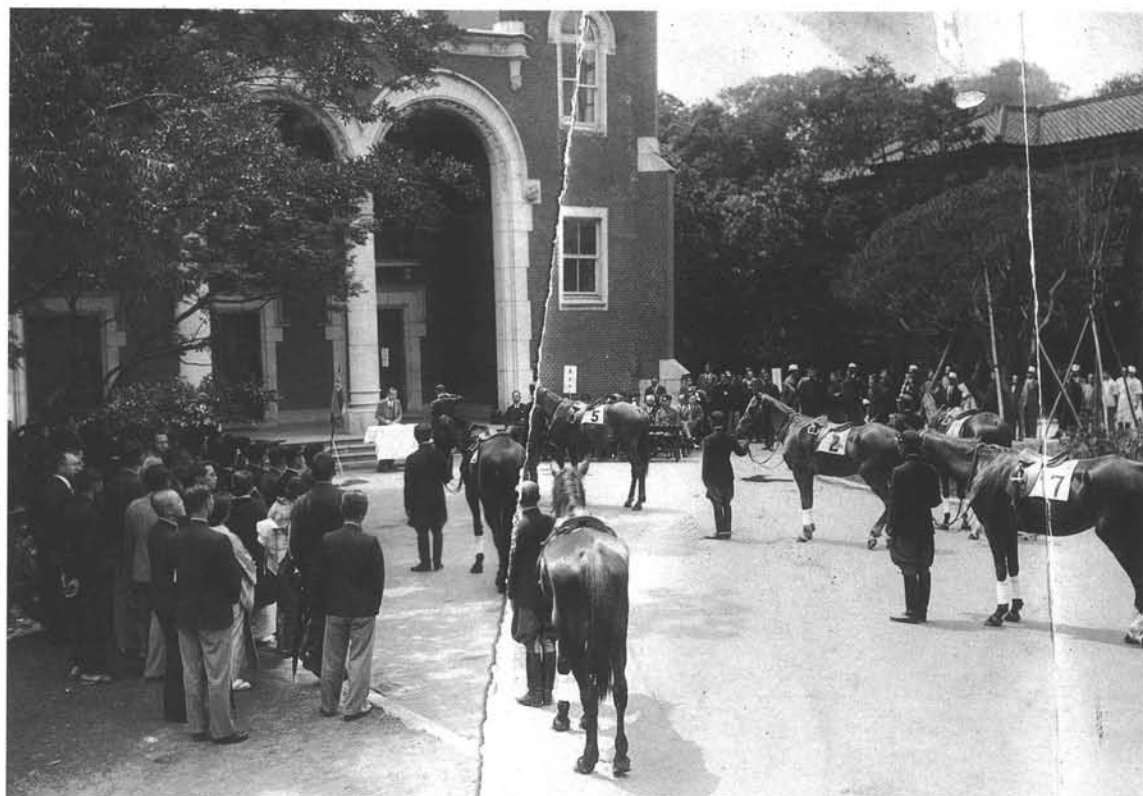
1926(昭和元年) 冬季習志野13連隊で合宿。



1937(昭和12年) 部最初の自馬3頭購入時の記念写真。玉川神奈川県畜産組合馬場。前列中央、金原賢之助部長。



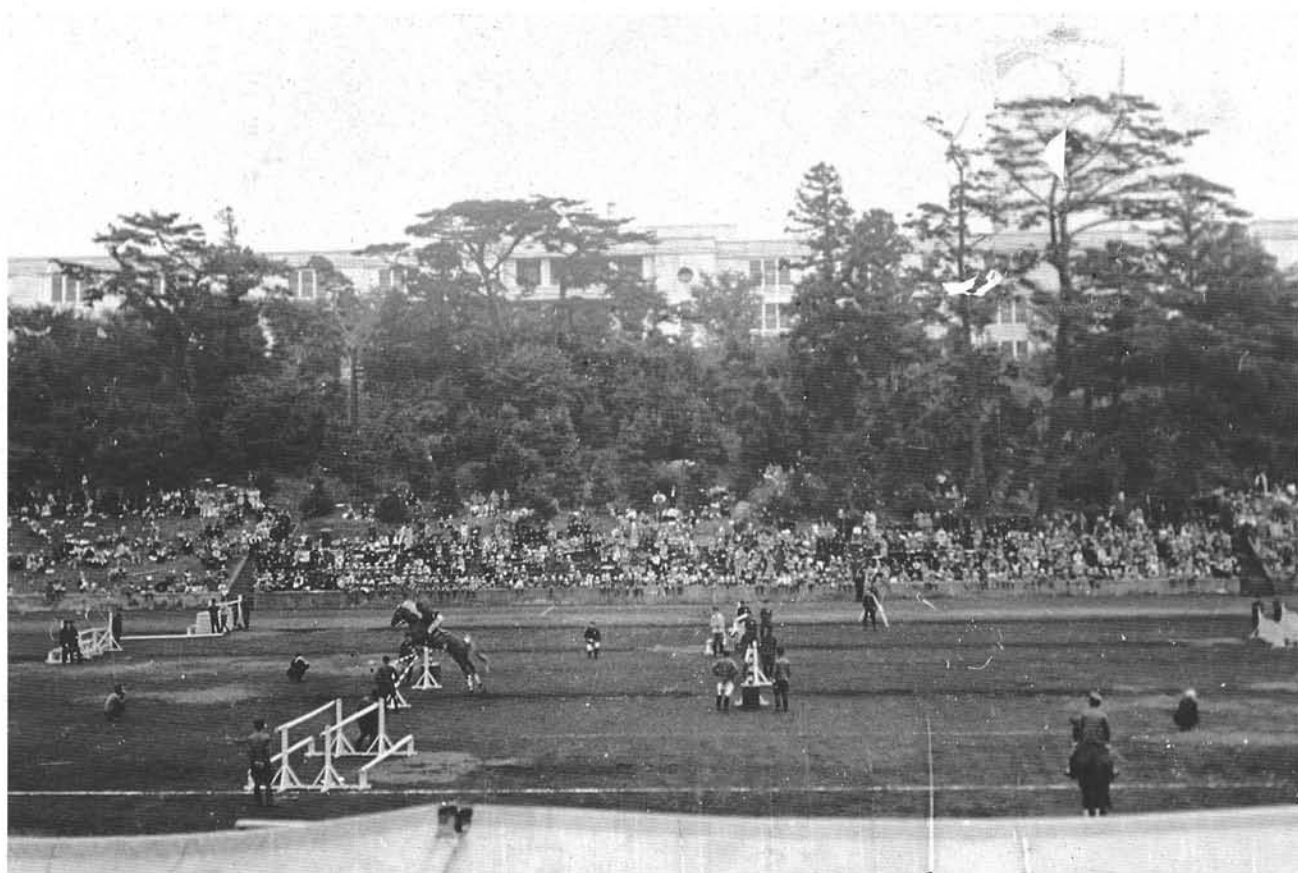
1928(昭和3年) 陸軍砲兵学校での練習。 1939(昭和14年) 自馬命名式、小泉塾長と慶泉号。



1939(昭和14年) 第1回自馬命名式。三田山上大ホール前にて。



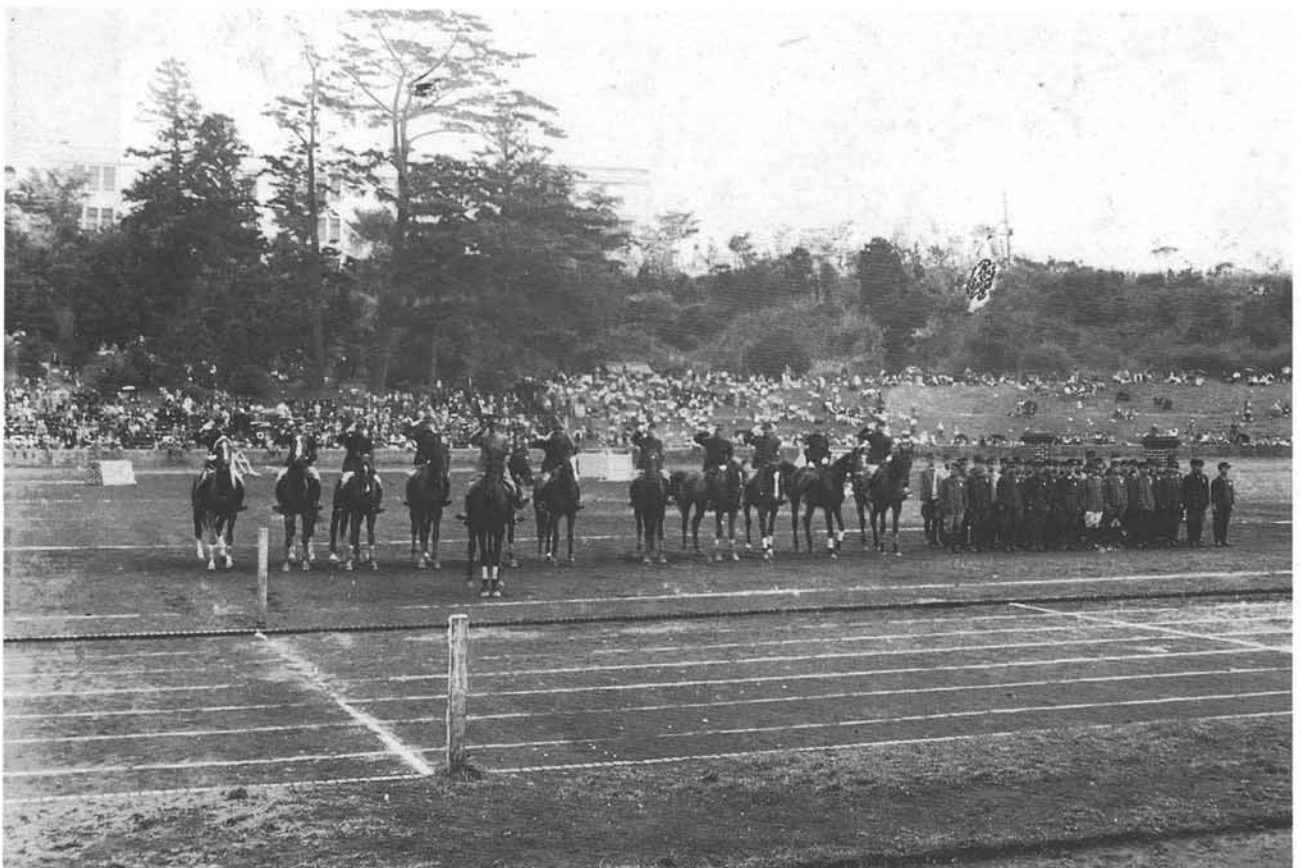
1939(昭和14年) 団体戦優勝杯に囲まれた松井幸雄主将(1948～55監督)。



1941(昭和16年) 秋季大運動会。供覧馬術。飛越。平沢弘雄主将。



1943(昭和18年) 戦時繰上げ卒業送別会。



1941(昭和16年) 秋季大運動会。供覧馬術。



1951(昭和26年) 対学習院戦で活躍される天皇陛下。日吉馬場。乗馬、慶應自馬・慶和。



1942(昭和17年) 習志野騎兵学校での練習。



1942(昭和17年) 習志野騎兵学校にて。練習後のひと時。

1919・4 馬術部の前身慶應義塾乗馬会が会長に河辺浩六先生を迎えて発足した。陸軍士官学校において、毎週日曜、練習を開始。

1922・9 乗馬会は正式に馬術部として体育会に加入。

1923・4 士官学校において、第1回関東乗馬大会、団体優勝。

1924 明治神宮奉納馬術競技大会で障害、蛇乗手前変換、巻乗競技で、全国参加の64団体中、最高点で優勝。

1925 習志野騎兵15連隊により、日曜練習15名を許可され、夏季合宿を同隊で行う。

1927・4 大阪愛馬会で関西大学と定期戦開始。

1928・4・1 関西大学と定期戦。/5・26 第4回関東学生馬術大会団体予科優勝。

1929・6 日本学生馬術協会発足。/8・3 対帝大戦。/9・4 対早大戦。

1931 第1回関東学生トーナメント、士官学

校において、中大、法大、明大、立大に勝ち優勝。/10・29 慶早戦、優勝。

1932 士官学校にて早慶帝3大学馬術大会開催、優勝。/7 第5回全日本学生選手権大会、竜江義明個人優勝。/7・27 第2回早慶帝戦、優勝。

1934・8・7 第3回早慶帝戦開催。

1937 騎兵学校放出馬、月光、月盟、公天の3頭を購入。神奈川県畜産組合に預託し、初めて大学自馬保有。

1938 第7回早慶帝3大学馬術大会、優勝。

1939・5 仙台馬術大会団体、松井以下4名優勝。宮城県岩沼町で馬匹5頭購入。/6 小泉塾長他の方々により、慶泉、慶雲、慶天、慶福、慶瑞、慶捷、慶州と馬匹命名式を行う。/8 関東学生トーナメント日大、明大、早大、帝大と戦い、帝大と決勝、2位となる。/10 関東学生大会4位。/11 8大学純馬術競技会団体6位。

1940・1 第15回関西大学と定期戦優勝。/6 東京4大学リーグ戦。第10回関東学生トーナメント。/8 早慶帝3大学馬術大会。/12 第5回8大学純馬術競技大会、個人平沢1位、団体2位。

1941・4 日吉乗馬クラブより諸施設および、敷地を購入。隣接地200坪を借地。本格的に馬場整備に着工。関西大学戦、早慶戦、早慶帝3大学馬術大会、優勝。

1943・4 在厩馬22頭に増加。塾生の軍事教練(乗馬の実習)を部員と並行して行う。/12 学徒出陣。馬糧不足によって倒れる馬も多くなか、残った部員の献身的努力によって自馬の飼育は続けられた。

1943・8 早慶帝3大学馬術大会、優勝。(戦前最後の早慶戦)。

1945 爆撃により日吉馬場の新厩舎と馬糧庫が焼失したが焼死する馬は1頭も出さず、苦しい馬糧難の時代も慶和、慶雲、慶駿等の



1991(平成3年)・10・6 馬術部、三田乗馬共催フェスティバル。阪笠体育会理事、祝辞。



1991(平成3年) 新厩舎全景。



1947(昭和22年) 主将山口吉久。習志野オリンピック厩舎で。



1991(平成3年) 新厩舎内部。



1991(平成3年) フェスティバル。女子部員、供覧馬術。

飼育を続けた。

1946 戦後復活第1回関東学生トーナメント開催、専大に敗れる。/11 第1回国民体育大会が京都で開催され遠征。大障害で慶駿藤村2位、慶和吉田5位、東西対抗リレー三野村優勝、団体浜野、平井、岡野、西村、森村、優勝。ようやく馬術部の活動が緒についた。

1947 競技会が盛んになる。/4 オール慶法戦優勝。/6 第2回関東学生トーナメント2位。/8 早慶東3大学馬術大会、優勝。/10 第2回国民体育大会、中障害、浜野3位、山岡4位、団体平井、西村、優勝。少年障害、稲垣3位。

1948 第3回関東学生トーナメントに18年ぶり優勝。

1949 以降、関東学生選手権大会、関西大学対抗、国民体育大会等に出場し、相当の成績を収めた。

1972 第20回ミュンヘンオリンピック大会

に竹田恒和(前監督)出場。以降、女子部員の増加、その活躍は男子を追いこすようになり、女子部門の門戸が広がった。

1975 日吉厩舎が老朽化したので、塾へお願い書を提出。

1976 日吉厩舎新築のための募金を開始(完了は1986年)。

1984・10 厩舎落成。建築内容:鉄筋2階建て。1階 16馬房、馬糧庫、馬具収納所、2階馬見所、男女学生合宿所、用務員宿舎。建築費合計5079万円。塾、779万円、OB他、4300万円。寄付者、第3代部長加藤寛、4代部長高橋潤三郎、両先生。三田乗馬会195名、三四会OB(医)56名、部員および父兄23名、法人3社。計279名(社)。

最近の成績等は省略。主たる年中行事は、女子学生馬術競技大会、関東学生トーナメント、関東女子学生代表選手選抜大会、オール慶法戦、オール早慶戦、関東学生自馬競技大

会、東京馬術競技大会、東京6大学自馬競技大会等があり、そのため良く調教された競技馬が多数要求される。

過去の勝利度は驚くべきものがあり、これも戦争等の困難な状況のもと各校より早く厩舎を建て、自馬を繋畜し、その飼料代も大変な金額であったにもかかわらず自校馬場、競技馬を保有したことが、最大の要因であったと言える。この事業を完成させるため、戦前部が二分されるほどめるといったこともあり、また、戦争中の飼料不足、戦災等の困難な時期を克服して今日に至ったもので、まさにローマは一日で成らずということが痛感される。